

振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は秋田県五城目町、新潟県刈羽村、福井県敦賀市、佐賀県玄海町の取り組みを紹介します。



起業家の集まる『BABABAME BASE』から町の活性化を目指す

秋田県五城目町
地図A

五城目町は秋田市の中心から車で40分ほど北上したところにあり、高齢化率全国1位の秋田県においても、その比率は県内3位で、人口約9,700人の町です。

この町で今、年間約5,000人の来館を数え、注目を集めているのが「五城目町地域活性化支援センター」、通称『BABABAME BASE』です。少子高齢化により13

8年の歴史に幕を閉じた旧馬場目小学校の校舎を活用し、レンタルオフィスとして平成25年10月にオープンしました。緑豊かな田園の

木の温もりを残したレンタル・オフィス



廃校になった旧馬場目小学校を活用



中にある校舎は、小学校当時の面影を残しつつオフィス用に一部が改装されており、広々とした天井に木の温もりが残る、自然な採光が豊かな施設となっています。かつての校庭、体育館は現在も変わらず姿のまま残され、企業の利用に留まらず町民も行事やスポーツなどが行える場所として役立てられています。

レンタル料は月2万円、原則5年の期限で19室を貸与。月7,000円でシェアオフィスを利用することも可能です。

かつて町は、大規模な工場などの企業誘致に取り組んだこともありましたが、「身の丈にあったところから」と目標転換。地元企業や姉妹都市である東京都千代田区へのアプローチを重ね、オープン時点で3社の入居に至りました。

現在の入居企業は13社。業態は教育、コンサルティング、ネット配信サービス、ドローンスク

ール、広告代理店など多岐にわたっています。

今では、町の企業との新しい事業が生まれることもあり、町との繋がりが醸成されています。

この「繋がり」を作ることに一役買っているのが地域おこし協力隊で、彼ら全員が県外からの移住者です。町の行事の企画、広報にも力を入れ、町の一員として尽力しています。協力隊が事務室に机を構えたことで、「入居者を含めた町の人々の意見交換の場、アイデア創造の場ができてきた」といいます。彼らは協力隊を卒業し、今度は自身が起業家として町に残ることを決断しました。

こうした地元での起業、いわゆる「土着ベンチャー」や、移住に興味のある人々を町に呼び込み支援する団体「ドチャベンジャーズ」がこのたび発足。入居企業を中心となって地元金融機関、町内企業、商工会、新旧協力隊などを巻き込み、団体として収益を上げ自立すること、メンバー自身の仕事にも繋げていくことを目標に新たな挑戦が始まりました。

「飲食業が年に1、2社起業する程度」であった五城目町は、ここ『BABABAME BASE』を拠点に、「起業家の集まるまち」として変貌を遂げようとしています。(文責・山登)

複合型飲食施設『至福の時間』が『ぴあパークとつりんぼ』内にオープン

新潟県刈羽村
地図B

このたび、刈羽村の大型複合施設『ぴあパークとつりんぼ』敷地建物に、新たな複合型飲食施設『至福の時間』がオープンしました。

『ぴあパークとつりんぼ』は、刈羽村砂丘地振興策の起爆剤として、平成24年に当時の東京電力(株)からの寄付金を元に、刈羽村がスポーツ施設や宿泊施設、温浴施設や飲食店などを整備したもので、地域の賑わい創

出に大きく貢献してきました。しかしながら、昨年9月にスイーツをメインとした飲食店が収益悪化のため閉店し、その後早期の再開を目指し、後継業者の選定や建物の改修などを鋭意進めた結果、このたびの新店舗オープンとなり

ミルクの風味が生きた本格ジェラート





地元食材にこだわったピザ

ました。

『至福の時間』は、地元の養鶏会社や飲食店など3社が出資し

ふるさと納税の返礼品を拡大・充実

福井県敦賀市
地図

敦賀市では今年4月から、敦賀市のふるさと納税返礼品の商品ラインナップが拡大されました。返礼品への参加事業者も増加して、敦賀の魅力ある特産品が、返礼品の品々としてより一層

充実したものになっています。従来から、敦賀市では地域資源に関連した新商品や、そのパッケージ開発を支援する「新商品チャレンジ事業」を推進してきました。その結果、商品開発を

する事業者が増加して、開発された商品は新たな『敦賀ブランド』となり、この事業で新たに開発された商品は、敦賀の伝統野菜「杉箸アカ

た新会社が運営しており、新鮮な卵をふんだんに使ったロールケーキ専門店、希少な乳牛である「ガンジー牛」の牛乳を使用したジェラート店、地元食材を使ったイタリアンレストランの3店で構成されています。1業態だけの店舗に比べ、各店舗が特徴のある商品を提供し補完し合うことで、これまで以上に安定した経営が期待できます。

また、愛犬と一緒に食事ができるスペースも併設されていて、

ペットを連れて方も一緒に楽しめる施設となっていることも大きな魅力のひとつです。

養鶏会社の経営にも携わっている『至福の時間』の立川社長は、「鶏の健康に配慮した卵や希少な牛乳を使うなど、地元の食材や味にこだわったメニューを提供することにより、地元のみならず県内外から多くのお客様が集まる店にしたい」と抱負を述べており、今後の賑わいが期待されています。〔文責・森(和)〕

カンバ（赤かぶら）を使用したお菓子『赤かんばんココロン』や、敦賀特産の東浦みかんの果汁を使った『東浦みかんのピール』などです。さらには、第二次世界大戦時に、杉原千畝が発給したピザにより敦賀港に上陸し、命を救われたユダヤ人難民との絆やエピソードをモチーフにしたお菓子『絆・幸せのルガラ』などを含む6品が返礼品のラインナップに加えられました。敦賀市への「ふるさと納税」は既に昨年度の実績を上回る件数の申込みがあり、非常に好評となっており、市は地元事業者等と協力した「敦賀の魅力・敦賀ブランド」が全国に発信されることを期待しています。〔文責・草野〕

次世代エネルギーパーク『あすぴあ』がリニューアルオープン

佐賀県玄海町
地図

平成25年7月にオープンした玄海町次世代エネルギーパーク『あすぴあ』が本年4月にリニューアルオープンしました。

『あすぴあ』は、明日を担う子どもたちが次世代エネルギーを見て、触れて、直接体験できる学習の場であると同時に、地域活性化をもたらす場としての機能を持っています。オープン以来年々来場者が増加し、本年5月には、累計来場者数40万人を達成しました。

今回のリニューアルでは、来場者が触って学べる展示物として、地球環境に関する様々な情報が映し出されるデジタル地球儀『タッチアース』を導入しました。この設備は可動式であるため、施設内だけでなく周辺地域でも学習することができます。

また、全天周型ドームで、天井の全面に映像を投影すること

ができる『アースラボ』では、タブレットを使用して再生可能エネルギーについて学習することが出来る映像コンテンツを導入しています。

今回のリニューアルにより、『あすぴあ』へ、多くのお客様に来場いただき、多くの学びを得ていただくとともに、他の町内施設等と『あすぴあ』が連携し、町の地域振興に繋がることを期待しています。〔文責・佐久本〕



デジタル地球儀『タッチアース』



敦賀で語り継がれる『リンゴの少年』の逸話にまつわるお菓子



柑橘系のアロマと爽快な味わいが特徴の『東浦みかんのビール』



天井のスクリーンで学習できる『アースラボ』

